

一般演題口演 | 一般演題：ICTの活用

■ 2024年7月19日(金) 15:20～16:20 ■ 第5会場 (カクイックス交流センター 3階 中研修室1)

[O14] ICTの活用

座長:船越 拓(東京ベイ・浦安市川医療センター 救急集中治療科)

15:34～15:41

**[O14-03] 新アルゴリズムver.2017に基づく救急自動通報 (D-Call Net) による
医師派遣起動の閾値 (予測重症率)**

*本村 友一^{1,2,3}、西本 哲也^{3,4}、平林 篤志^{1,2}、石川 博敏^{3,5}、益子 一樹^{1,2}、益子 邦洋^{3,5,6}、原 義明^{1,2}、北村 伸哉^{3,7,8} (1. 日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター、2. 日本医科大学 救急医学講座、3. D-Call Net研究会、4. 日本大学工学部、5. 救急ヘリ病院ネットワーク (HEM-Net)、6. 南多摩病院、7. 君津中央病院、8. 日本航空医療学会ドクターヘリ委員会)

【はじめに】交通事故患者への早期医療介入のため、事故情報から算出された乗員の重症外傷受傷率 (重症率) を根拠にドクターヘリなど医師派遣を行う救急自動通報 (D-Call Net) が2015年より世界で初めて社会実装された。2021年12月より新アルゴリズムver.2017 (以下v17) が用いられている。【目的】医師派遣の閾値 (重症率) を求めること【対象】2009-16年 (8年間) に当センターへ搬送された交通外傷患者 (乗用車乗員) で事故実態調査を行った事例・症例【方法】重症の定義 (1) MAIS 3+の症例 または (2) いずれかある症例①受傷24時間以内緊急手術、②同血管塞栓術、③同輸血、④同死亡/ICU入院 対象の工学情報からv17を使用し重症率を算出し、重症率を変化させアンダートリアージ (UT) 率、オーバートリアージ (OT) 率を示した。乗員年齢が不明の現状でUT率10%未満となる閾値を求めた。【結果】対象326例で重症は (1) 169人 (2) 128人、UT率10%未満とする閾値 (重症率) は (1) 19.5% (2) 24.1%【考察・結論】v17で医師派遣閾値は重症率およそ20%